

3. 日本周辺高度回遊性魚類資源調査委託事業

高木信夫・吉田政彦*

本調査は、マグロ類資源の科学的データを完備し、資源の安定的な利用を確保することを目的として、平成9年度から全国的規模で実施されているもので、現在はJV方式によって実施している。本年度は、漁獲状況調査、生物測定調査を実施した。なお、詳細については、「平成28年度日本周辺国際魚類資源調査委託事業報告書、平成29年2月、独立行政法人水産総合研究センター」に報告した。

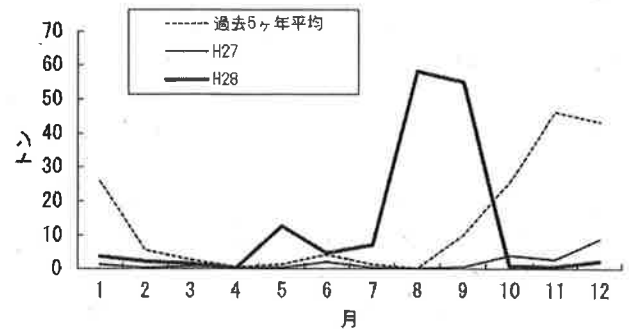


図2 対馬標本漁協におけるヨコワ漁獲量経月変化

これは、対馬標本漁協では8,9月に、まとまった漁獲があったためである。(図2, 3)。

平成28年の長崎魚市に水揚げされるマグロ類は、大目流網のほか、県外船の近海かつお一本釣りなどで漁獲されたものが多く水揚げされる。水揚げされるまぐろ類としては、クロマグロ、キハダ、コシナガが多かった。クロマグロは冬～春季に大目流網で、またキハダは夏季に近海かつお一本釣り船で漁獲された。またコシナガは夏季～秋季に近海かつお一本釣り船で水揚げされた。

平成28年の長崎魚市へのカジキ類の水揚げ量を大目流網についてみると、東シナ海での主漁期となったのは、1～3月で、水揚げされる魚種としてはマカジキがほとんどを占めた(図3)。

I. 漁獲状況調査

方法

下記に示した各海区標本漁協の平成28年1～12月分について、曳縄漁業におけるクロマグロの銘柄別漁獲量を収集した。また、長崎魚市においてマグロ類・カジキ類の水揚げ量を収集した。

[クロマグロの調査漁協]

対馬海区：上対馬町漁協、上県町漁協、美津島町漁協
尾崎支所、巖原町漁協阿連支所

壱岐海区：箱崎漁協

北松海区：宇久小値賀漁協

五島海区：五島漁協

結果

平成28年の漁獲状況を対馬標本漁協と五島標本漁協の合計でみると、平成27年の31トンに対し平成28年は158トンで、前年を大きく上回った(図1)。

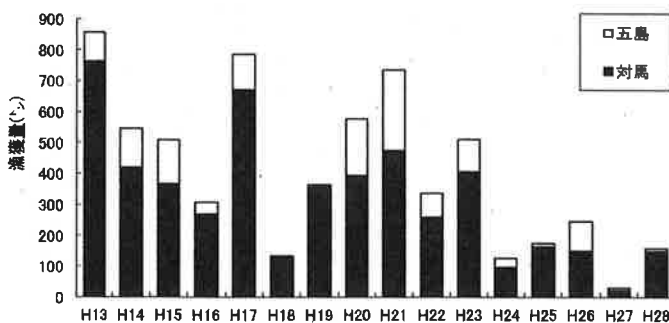


図1 対馬及び五島代表漁協におけるヨコワ漁獲量

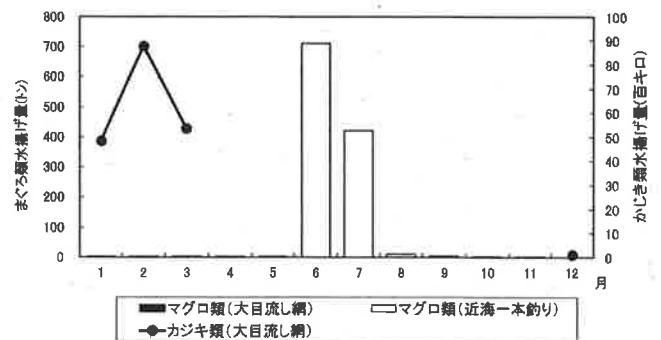


図3 長崎魚市における漁業種類別カジキ類・マグロ類水揚げ量

* 対馬水産業普及指導センター

II. 生物測定調査

結果

11月1日, 12月23日に五島で漁獲されたクロマグロ幼魚を, 11月3日に対馬で漁獲されたクロマグロ幼魚を買い上げて尾叉長を測定した。

五島標本は11月1日が尾叉長319~369 mm, 12月28日が390~430 mmであった。また対馬標本は尾叉長675~870 mmであった。

(担当: 高木)